



愛知淑徳大学  
ビジネス学部教授  
**三矢 幹根**

スイング・トレードでは短期トレンドの波に乗り続けるため、上げ相場から下げ相場に転じれば必ずと買

株を一日買ったまゝそのまま何年も放置するのではなく、数日から数週間を中途に一旦は利益確定することを想定して行う短期トレードがスイング・トレードである。真剣に着実に利益を出し続けようとする個人投資家には、買ってから何年もただ放置する「長期投資」という名の放置プレーよりも、こちらの方が適している。同一銘柄のスイングトレード・トレードを繰り返して利益を着実に積み上げながら3年も5年も続ければ中期投資となり、さらに7年も10年も継続すれば長期投資となる。

## 投資家にはスイング・トレード 着実に利益積み上げたい

スイング・トレードでは短期トレンドの波に乗り続けるため、上げ相場から下げ相場に転じれば必ずと買

### 実学の株式投資技術の必要性の行方(21)

い目標から売り直線に切り替わっているため、潮目の変化にいち早く気付き、一旦持ち株をキャッシュに戻して待機し続け、下げ止まつたら買い直して買いポジションを再び取るという賢明な行動ができる。長期投資という名の「言い訳」で拡大する含み損を無為無策で放置するのとは違い、含み損が膨らむということはない。

つまり、資金は常に生きている、利益を稼ぐために有効活用され続ける。その結果、資産回転率が高い。スイング・トレードの流れは、「①銘柄選択、②仕掛け、③利食い手仕舞い・ロスカット、④再仕掛け、⑤あるいは次の銘柄への移行」となる。初心者のほとんどは銘柄選択が一番難しいとい

うが、株価の原理原則を理解すればそれほど難しくない。赤字の場合は例外だが、株価Pは予想EPS(一株利益)と予想PER(市価収益率)の積(掛け算)で決まる。予想EPSを不变と仮定すれば、業績見通しが上向きならEPSも大きくなり、その結果、株価Pは上昇する。予想EPSが変わらなければ、何らかの好材料が出てきて投資家の期待が高まるが、その度合いを示す予想PERが大きくなり株

価は上昇する。一番力強い上昇は予想EPSも予想PERも共に大幅に現れる。相場の背景の変化に注意していると、銘柄選択をする際に絞り込みで始めるメガバンク株は上がり始める。なぜなら、ビジネスモデル上、銀行は預金と貸出金の利ザヤが拡大するのに加えて、低い短期金利で資金を調達して外のより高い長期金利の債券投資で運用する構造のため、利ザヤが拡大すると誰もが予想するからである。さて、銘柄選択に比べるとほるかに難しいのが利食い手仕舞いと再仕掛けである。その主な原因は、ヤード・リーディングの実戦的知識の不足、研究不足、実戦経験の不足である。株価のトレンドは原理原則ではすべて説明できるが、日々の細かい上げ下げは短期的には原理原則

要因がいくつかあるし、中長期的には上昇トレンドが続くとしても、必ずどこかで利食い売りが優勢となり反落する時が頻繁にある。

だから、買ってから何年も継続すること珍しくない。ただ放置しておくのは賢明な手法ではないのである。